

第 42 回「秋田県内家計の消費動向調査」結果 (令和 3 年 12 月調査)

～ 消費マインドは持ち直しの動きが続いている ～

【調査の要旨】

- **消費指数**は▲84.1（前期比 7.2 ポイント上昇）と 6 期連続で改善となった。内訳をみると、景気判断指数は▲48.8（同 5.8 ポイント上昇）と 3 期ぶりに改善し、暮らし向き判断指数は▲35.3（同 1.4 ポイント上昇）と 6 期連続で改善とともに改善となった。
- **今後の見通し**は▲90.7（今回調査比 6.6 ポイント下落）と悪化が見込まれている。内訳としては、景気判断指数は▲49.2（同 0.4 ポイント下落）と小幅ながら悪化が見込まれており、暮らし向き判断指数も▲41.5（同 6.2 ポイント下落）と悪化が見込まれている。
- **大きな買い物**への支出意向は、「予定がある」と回答した世帯の割合は、「自家用車の購入」では 3.7%（前期比 0.7 ポイント低下）、「住宅、土地の購入」では 0.8%（同 0.4 ポイント低下）、「住宅リフォーム」では 2.9%（同 0.3 ポイント低下）と 3 項目で低下となり、「海外旅行」(0.0%) は引き続き皆無となった。
- **家計簿調査**は、収入面では可処分所得（収入の手取り額）が 403 千円となり、前年同期とほぼ同額となった。支出面では支出合計が 398 千円となり、前年同期比で 7 千円の増額となった。この結果、平均消費性向（家計支出/可処分所得）は 98.9%（前年同期比 1.8 ポイント上昇）となった。
- **節約の意識**について、日々の生活でどの程度節約を意識しているか尋ねたところ、「かなり意識している」が 39.3%、「やや意識している」が 51.7%となり、これを合計した「(節約を) 意識している」と回答した世帯は 91.0%と、昨年（令和 2 年 12 月）調査と同率で、引き続き 9 割以上と高い割合となった。

令和 4 年 1 月

株式会社フィデア情報総研

目次

I. 消費指数	1
II. 消費指数（内訳）	3
1. 景気判断	3
(1) 景気判断の概況	3
(2) 景気判断の推移	4
2. 暮らし向き判断	5
(1) 暮らし向き判断の概況	5
(2) 暮らし向き判断の推移	6
III. 支出意向	7
1. 支出意向 D I の推移	7
2. 支出意向（大きな買い物）の推移	8
IV. 家計簿調査	9
V. 特別調査	11
1. 節約の意識について	11
(1) 節約の意識について	11
(2) 節約を意識している理由	12
(3) 節約を特に意識する出費	14
VI. 調査の概要	15

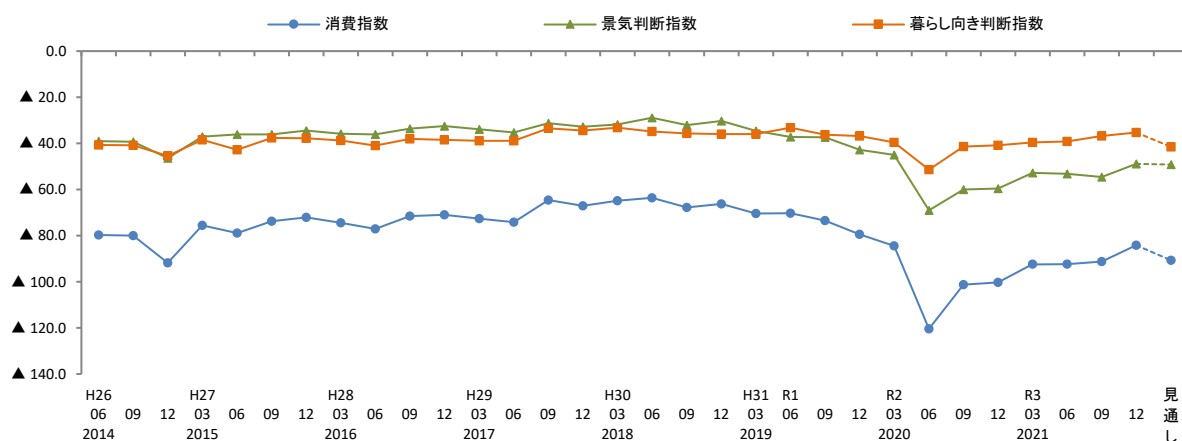
I. 消費指数

～ 消費マインドは持ち直しの動きが続いている ～

消費指数は▲84.1（前期比 7.2 ポイント上昇）と 6 期連続で改善となった。内訳をみると、景気判断指数は▲48.8（同 5.8 ポイント上昇）と 3 期ぶりに改善し、暮らし向き判断指数は▲35.3（同 1.4 ポイント上昇）と 6 期連続で改善とともに改善となった。

なお、今後の見通しについては▲90.7（今回調査比 6.6 ポイント下落）と悪化が見込まれている。内訳としては、景気判断指数は▲49.2（同 0.4 ポイント下落）と小幅ながら悪化が見込まれており、暮らし向き判断指数も▲41.5（同 6.2 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 1 消費指数の推移



調査時期		消費指数		
			景気判断	暮らし向き判断
2年	12月	▲ 100.3	▲ 59.5	▲ 40.8
3年	3月	▲ 92.4	▲ 52.8	▲ 39.6
	6月	▲ 92.3	▲ 53.2	▲ 39.1
	9月	▲ 91.3	▲ 54.6	▲ 36.7
3年	12月	▲ 84.1	▲ 48.8	▲ 35.3
	(前期比)	(7.2)	(5.8)	(1.4)
	(前年同期比)	(16.2)	(10.7)	(5.5)
4年	見通し	▲ 90.7	▲ 49.2	▲ 41.5
	(今回調査比)	(▲ 6.6)	(▲ 0.4)	(▲ 6.2)

【指数の見方】

消費指数は景気判断指数（景気・雇用環境・物価の3項目で構成）と暮らし向き指数（世帯収入・保有資産・お金の使い方・暮らしのゆとりの4項目で構成）の合計からなり、値は 200～▲200 の範囲をとります。指数がプラスであれば家計の消費マインドは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば、消費マインドは低迷していると判断します。

図表 2 消費指数（内訳）の推移

消費指数

調査時期		消費指数									
		(1)景気判断指数					(2)暮らし向き判断指数				
				①景気	②雇用環境	③物価		④世帯収入	⑤保有資産	⑥お金の使い方	⑦暮らしのゆとり
H29年	3月	▲ 72.6	▲ 33.8	▲ 9.3	▲ 5.9	▲ 18.6	▲ 38.8	▲ 7.9	▲ 11.4	▲ 7.3	▲ 12.2
	6月	▲ 74.1	▲ 35.3	▲ 9.4	▲ 4.4	▲ 21.5	▲ 38.8	▲ 7.8	▲ 11.4	▲ 7.0	▲ 12.6
	9月	▲ 64.6	▲ 31.2	▲ 8.5	▲ 4.2	▲ 18.5	▲ 33.4	▲ 7.6	▲ 10.4	▲ 4.5	▲ 10.9
	12月	▲ 67.1	▲ 32.7	▲ 8.7	▲ 4.0	▲ 20.0	▲ 34.4	▲ 7.1	▲ 10.1	▲ 5.9	▲ 11.3
30年	3月	▲ 64.9	▲ 31.7	▲ 7.6	▲ 3.1	▲ 21.0	▲ 33.2	▲ 7.1	▲ 9.6	▲ 5.5	▲ 11.0
	6月	▲ 63.6	▲ 28.8	▲ 6.1	▲ 1.8	▲ 20.9	▲ 34.8	▲ 7.1	▲ 10.1	▲ 5.6	▲ 12.0
	9月	▲ 67.7	▲ 32.0	▲ 8.6	▲ 3.7	▲ 19.7	▲ 35.7	▲ 8.2	▲ 10.6	▲ 5.5	▲ 11.4
	12月	▲ 66.2	▲ 30.3	▲ 7.7	▲ 2.4	▲ 20.2	▲ 35.9	▲ 7.8	▲ 10.6	▲ 5.3	▲ 12.2
H31年 R1年	3月	▲ 70.4	▲ 34.5	▲ 8.7	▲ 3.5	▲ 22.3	▲ 35.9	▲ 8.1	▲ 10.4	▲ 6.1	▲ 11.3
	6月	▲ 70.3	▲ 37.2	▲ 10.1	▲ 4.5	▲ 22.6	▲ 33.1	▲ 7.8	▲ 10.1	▲ 4.5	▲ 10.7
	9月	▲ 73.5	▲ 37.3	▲ 9.9	▲ 5.0	▲ 22.4	▲ 36.2	▲ 7.5	▲ 11.1	▲ 5.8	▲ 11.8
	12月	▲ 79.4	▲ 42.7	▲ 11.6	▲ 7.8	▲ 23.3	▲ 36.7	▲ 8.8	▲ 11.1	▲ 5.7	▲ 11.1
2年	3月	▲ 84.5	▲ 44.9	▲ 15.5	▲ 9.1	▲ 20.3	▲ 39.6	▲ 7.9	▲ 11.5	▲ 7.8	▲ 12.4
	6月	▲ 120.4	▲ 69.0	▲ 24.1	▲ 22.1	▲ 22.8	▲ 51.4	▲ 12.1	▲ 13.5	▲ 11.9	▲ 13.9
	9月	▲ 101.3	▲ 60.0	▲ 20.2	▲ 18.9	▲ 20.9	▲ 41.3	▲ 9.4	▲ 10.6	▲ 8.9	▲ 12.4
	12月	▲ 100.3	▲ 59.5	▲ 21.0	▲ 19.9	▲ 18.6	▲ 40.8	▲ 10.2	▲ 10.8	▲ 7.8	▲ 12.0
3年	3月	▲ 92.4	▲ 52.8	▲ 17.1	▲ 15.9	▲ 19.8	▲ 39.6	▲ 9.4	▲ 10.4	▲ 7.9	▲ 11.9
	6月	▲ 92.3	▲ 53.2	▲ 16.4	▲ 16.1	▲ 20.7	▲ 39.1	▲ 9.1	▲ 9.6	▲ 8.7	▲ 11.7
	9月	▲ 91.3	▲ 54.6	▲ 16.7	▲ 15.1	▲ 22.8	▲ 36.7	▲ 7.9	▲ 8.7	▲ 8.9	▲ 11.2
	12月	▲ 84.1	▲ 48.8	▲ 12.4	▲ 11.0	▲ 25.4	▲ 35.3	▲ 8.4	▲ 9.3	▲ 6.8	▲ 10.8
4年	3月(見通し)	▲ 90.7	▲ 49.2	▲ 13.4	▲ 10.8	▲ 25.0	▲ 41.5	▲ 9.9	▲ 10.2	▲ 9.3	▲ 12.1

(前期差)

調査時期		消費指数									
		(1)景気判断指数					(2)暮らし向き判断指数				
		①景気		②雇用環境		③物価	④世帯収入		⑤保有資産	⑥お金の使い方	⑦暮らしのゆとり
H29年	3月	▲1.6	▲1.3	▲0.7	▲0.8	0.2	▲0.3	0.1	0.0	▲0.4	0.0
	6月	▲1.5	▲1.5	▲0.1	1.5	▲2.9	0.0	0.1	0.0	0.3	▲0.4
	9月	9.5	4.1	0.9	0.2	3.0	5.4	0.2	1.0	2.5	1.7
	12月	▲2.5	▲1.5	▲0.2	0.2	▲1.5	▲1.0	0.5	0.3	▲1.4	▲0.4
30年	3月	2.2	1.0	1.1	0.9	▲1.0	1.2	0.0	0.5	0.4	0.3
	6月	1.3	2.9	1.5	1.3	0.1	▲1.6	0.0	▲0.5	▲0.1	▲1.0
	9月	▲4.1	▲3.2	▲2.5	▲1.9	1.2	▲0.9	▲1.1	▲0.5	0.1	0.6
	12月	1.5	1.7	0.9	1.3	▲0.5	▲0.2	0.4	0.0	0.2	▲0.8
H31年 R1年	3月	▲4.2	▲4.2	▲1.0	▲1.1	▲2.1	0.0	▲0.3	0.2	▲0.8	0.9
	6月	0.1	▲2.7	▲1.4	▲1.0	▲0.3	2.8	0.3	0.3	1.6	0.6
	9月	▲3.2	▲0.1	0.2	▲0.5	0.2	▲3.1	0.3	▲1.0	▲1.3	▲1.1
	12月	▲5.9	▲5.4	▲1.7	▲2.8	▲0.9	▲0.5	▲1.3	0.0	0.1	0.7
2年	3月	▲5.1	▲2.2	▲3.9	▲1.3	3.0	▲2.9	0.9	▲0.4	▲2.1	▲1.3
	6月	▲35.9	▲24.1	▲8.6	▲13.0	▲2.5	▲11.8	▲4.2	▲2.0	▲4.1	▲1.5
	9月	19.1	9.0	3.9	3.2	1.9	10.1	2.7	2.9	3.0	1.5
	12月	1.0	0.5	▲0.8	▲1.0	2.3	0.5	▲0.8	▲0.2	1.1	0.4
3年	3月	7.9	6.7	3.9	4.0	▲1.2	1.2	0.8	0.4	▲0.1	0.1
	6月	0.1	▲0.4	0.7	▲0.2	▲0.9	0.5	0.3	0.8	▲0.8	0.2
	9月	1.0	▲1.4	▲0.3	1.0	▲2.1	2.4	1.2	0.9	▲0.2	0.5
	12月	7.2	5.8	4.3	4.1	▲2.6	1.4	▲0.5	▲0.6	2.1	0.4
4年	3月(見通し)	▲6.6	▲0.4	▲1.0	0.2	0.4	▲6.2	▲1.5	▲0.9	▲2.5	▲1.3

(前年同期差)

調査時期		消費指数									
		(1)景気判断指数					(2)暮らし向き判断指数				
		①景気		②雇用環境	③物価	④世帯収入		⑤保有資産	⑥お金の使い方	⑦暮らしのゆとり	
H29年	3月	1.9	2.0	0.7	0.9	0.4	▲ 0.1	0.8	▲ 0.9	0.3	▲ 0.3
	6月	3.0	0.8	1.1	1.6	▲ 1.9	2.2	0.9	1.0	0.4	▲ 0.1
	9月	6.9	2.3	1.0	1.1	0.2	4.6	0.6	0.7	2.0	1.3
	12月	3.9	▲ 0.2	▲ 0.1	1.1	▲ 1.2	4.1	0.9	1.3	1.0	0.9
30年	3月	7.7	2.1	1.7	2.8	▲ 2.4	5.6	0.8	1.8	1.8	1.2
	6月	10.5	6.5	3.3	2.6	0.6	4.0	0.7	1.3	1.4	0.6
	9月	▲ 3.1	▲ 0.8	▲ 0.1	0.5	▲ 1.2	▲ 2.3	▲ 0.6	▲ 0.2	▲ 1.0	▲ 0.5
	12月	0.9	2.4	1.0	1.6	▲ 0.2	▲ 1.5	▲ 0.7	▲ 0.5	0.6	▲ 0.9
H31年 R1年	3月	▲ 5.5	▲ 2.8	▲ 1.1	▲ 0.4	▲ 1.3	▲ 2.7	▲ 1.0	▲ 0.8	▲ 0.6	▲ 0.3
	6月	▲ 6.7	▲ 8.4	▲ 4.0	▲ 2.7	▲ 1.7	1.7	▲ 0.7	0.0	1.1	1.3
	9月	▲ 5.8	▲ 5.3	▲ 1.3	▲ 1.3	▲ 2.7	▲ 0.5	0.7	▲ 0.5	▲ 0.3	▲ 0.4
	12月	▲ 13.2	▲ 12.4	▲ 3.9	▲ 5.4	▲ 3.1	▲ 0.8	▲ 1.0	▲ 0.5	▲ 0.4	1.1
2年	3月	▲ 14.1	▲ 10.4	▲ 6.8	▲ 5.6	2.0	▲ 3.7	0.2	▲ 1.1	▲ 1.7	▲ 1.1
	6月	▲ 50.1	▲ 31.8	▲ 14.0	▲ 17.6	▲ 0.2	▲ 18.3	▲ 4.3	▲ 3.4	▲ 7.4	▲ 3.2
	9月	▲ 27.8	▲ 22.7	▲ 10.3	▲ 13.9	1.5	▲ 5.1	▲ 1.9	0.5	▲ 3.1	▲ 0.6
	12月	▲ 20.9	▲ 16.8	▲ 9.4	▲ 12.1	4.7	▲ 4.1	▲ 1.4	0.3	▲ 2.1	▲ 0.9
3年	3月	▲ 7.9	▲ 7.9	▲ 1.6	▲ 6.8	0.5	0.0	▲ 1.5	1.1	▲ 0.1	0.5
	6月	28.1	15.8	7.7	6.0	2.1	12.3	3.0	3.9	3.2	2.2
	9月	10.0	5.4	3.5	3.8	▲ 1.9	4.6	1.5	1.9	0.0	1.2
	12月	16.2	10.7	8.6	8.9	▲ 6.8	5.5	1.8	1.5	1.0	1.2
4年	3月(見通し)	1.7	3.6	3.7	5.1	▲ 5.2	▲ 1.9	▲ 0.5	0.2	▲ 1.4	▲ 0.2

II. 消費指数（内訳）

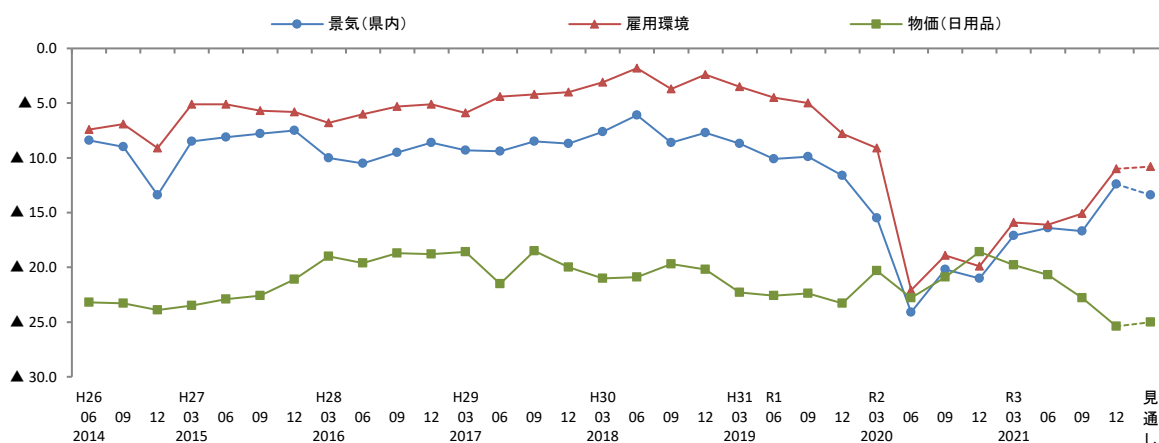
1. 景気判断

(1) 景気判断の概況

景気判断指数は▲48.8（前期比 5.8 ポイント上昇）と 3 期ぶりの改善となった。指数を構成する個別指数でみると、「物価（日用品）」が悪化した一方、「景気（県内）」と「雇用環境」は改善となった。

なお、今後の見通しについては▲49.2（今回調査比 0.4 ポイント下落）と小幅ながら悪化が見込まれている。個別指数では、「雇用環境」が▲10.8（同 0.2 ポイント上昇）、「物価（日用品）」が▲25.0（同 0.4 ポイント上昇）と改善の見込みとなっている一方、「景気（県内）」では▲13.4（同 1.0 ポイント下落）と悪化が見込まれている。

図表 3 景気判断指数（内訳）の推移



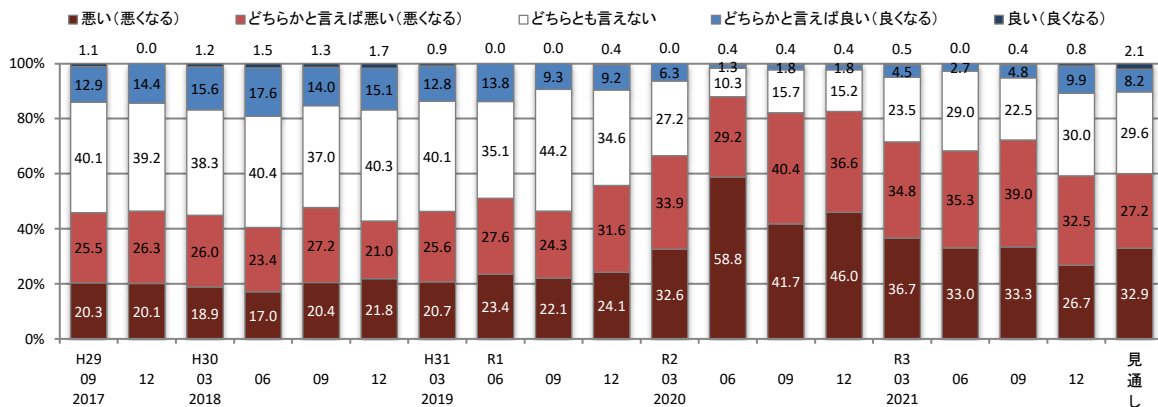
調査時期		景気判断指数			
			景気(県内)	雇用環境	物価(日用品)
2年	12月	▲ 59.5	▲ 21.0	▲ 19.9	▲ 18.6
3年	3月	▲ 52.8	▲ 17.1	▲ 15.9	▲ 19.8
	6月	▲ 53.2	▲ 16.4	▲ 16.1	▲ 20.7
	9月	▲ 54.6	▲ 16.7	▲ 15.1	▲ 22.8
3年	12月	▲ 48.8	▲ 12.4	▲ 11.0	▲ 25.4
	(前期比)	(5.8)	(4.3)	(4.1)	(▲ 2.6)
	(前年同期比)	(10.7)	(8.6)	(8.9)	(▲ 6.8)
4年	見通し	▲ 49.2	▲ 13.4	▲ 10.8	▲ 25.0
	(今回調査比)	(▲ 0.4)	(▲ 1.0)	(0.2)	(0.4)

【指数の見方】

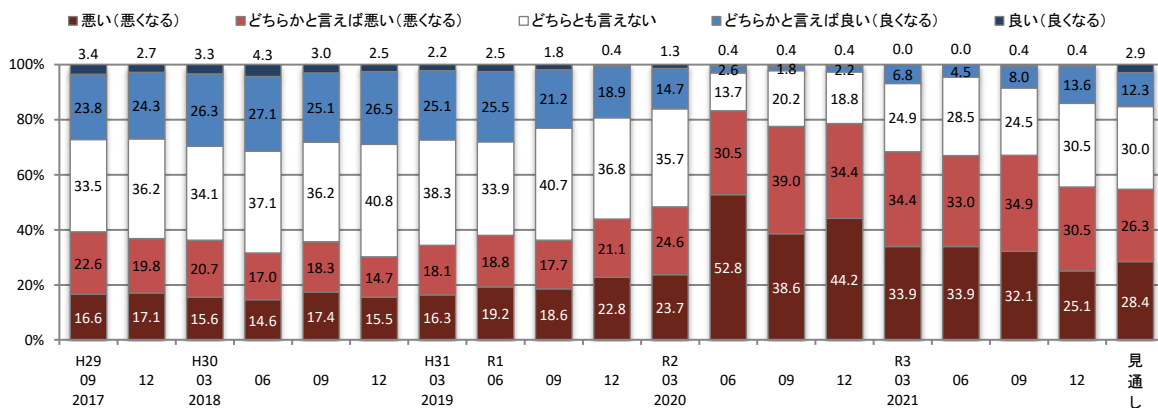
景気判断指数は景気（県内）、雇用環境、物価（日用品）の3項目の合計からなり、値は 100～▲100 の範囲をとります。指数がプラスであれば県内景気は高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば低迷していると判断します。

(2) 景気判断の推移

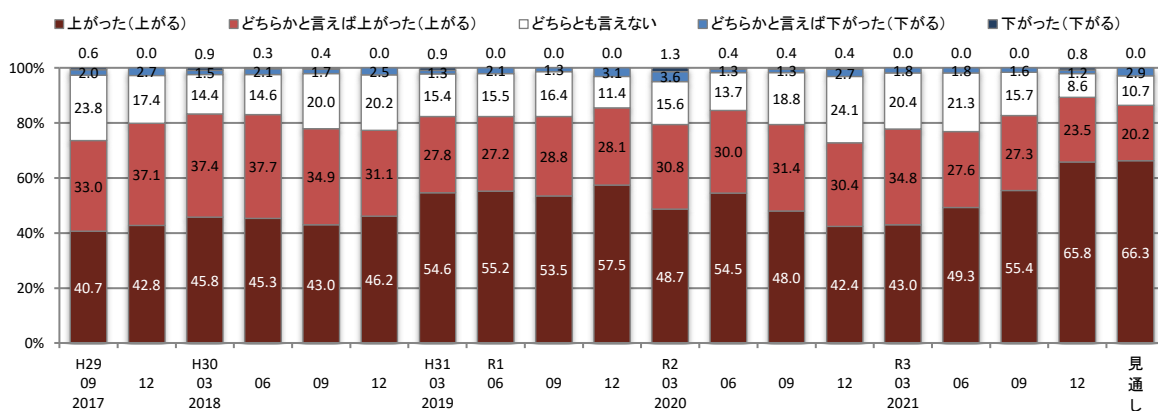
① 景気（県内）



② 雇用環境



③ 物価（日用品）



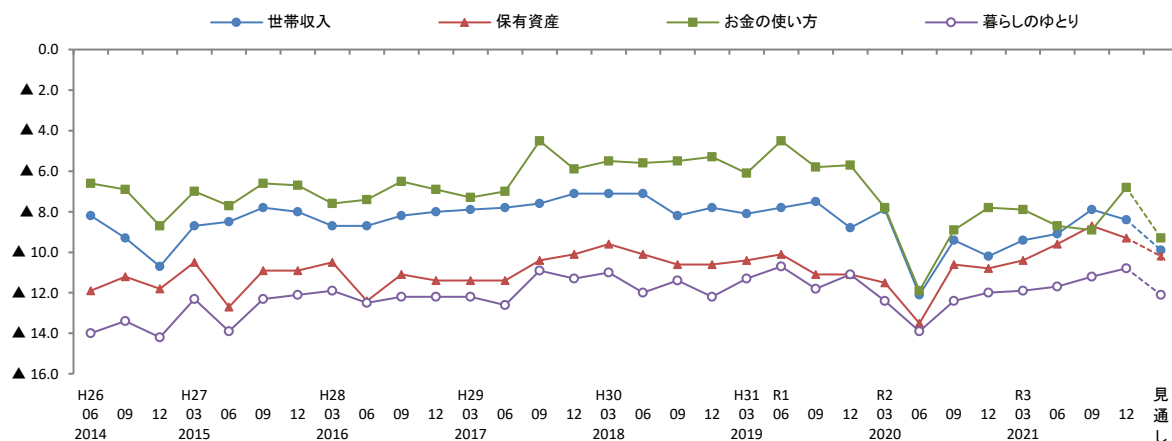
2. 暮らし向き判断

(1) 暮らし向き判断の概況

暮らし向き判断指数は▲35.3（前期比 1.4 ポイント上昇）と 6 期連続で改善した。指数を構成する個別指数でみると、「世帯収入」と「保有資産」が悪化となった一方、「お金の使い方」と「暮らしのゆとり」は改善となった。

なお、今後の見通しについては▲41.5（今回調査比 6.2 ポイント下落）と悪化の見通しとなっている。個別指数はすべての項目で悪化が見込まれており、「世帯収入」が▲9.9（同 1.5 ポイント下落）、「保有資産」が▲10.2（同 0.9 ポイント下落）、「お金の使い方」が▲9.3（同 2.5 ポイント下落）、「暮らしのゆとり」が▲12.1（同 1.3 ポイント下落）となっている。

図表 4 暮らし向き判断指数（内訳）の推移



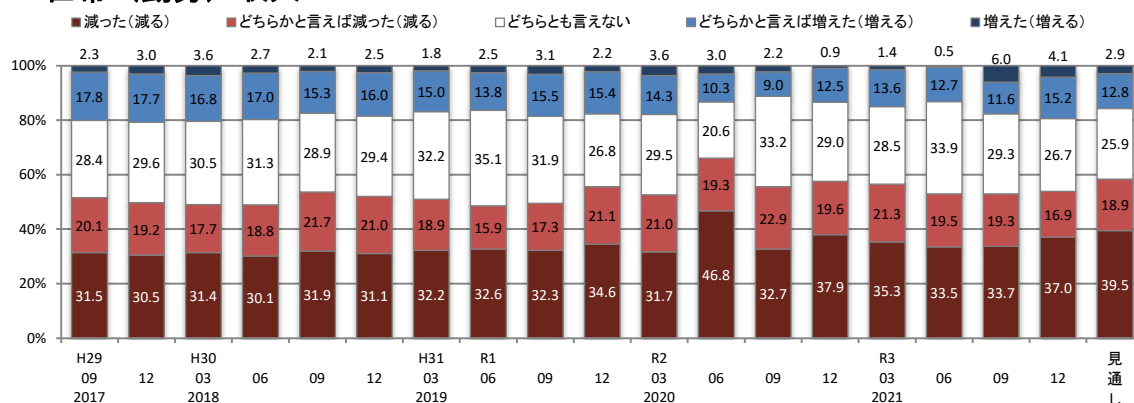
調査時期		暮らし向き判断指数				
			世帯収入	保有資産	お金の使い方	暮らしのゆとり
2年	12月	▲ 40.8	▲ 10.2	▲ 10.8	▲ 7.8	▲ 12.0
3年	3月	▲ 39.6	▲ 9.4	▲ 10.4	▲ 7.9	▲ 11.9
	6月	▲ 39.1	▲ 9.1	▲ 9.6	▲ 8.7	▲ 11.7
	9月	▲ 36.7	▲ 7.9	▲ 8.7	▲ 8.9	▲ 11.2
3年	12月	▲ 35.3	▲ 8.4	▲ 9.3	▲ 6.8	▲ 10.8
	(前期比)	(1.4)	(▲ 0.5)	(▲ 0.6)	(2.1)	(0.4)
	(前年同期比)	(5.5)	(1.8)	(1.5)	(1.0)	(1.2)
4年	見通し	▲ 41.5	▲ 9.9	▲ 10.2	▲ 9.3	▲ 12.1
	(今回調査比)	(▲ 6.2)	(▲ 1.5)	(▲ 0.9)	(▲ 2.5)	(▲ 1.3)

【指数の見方】

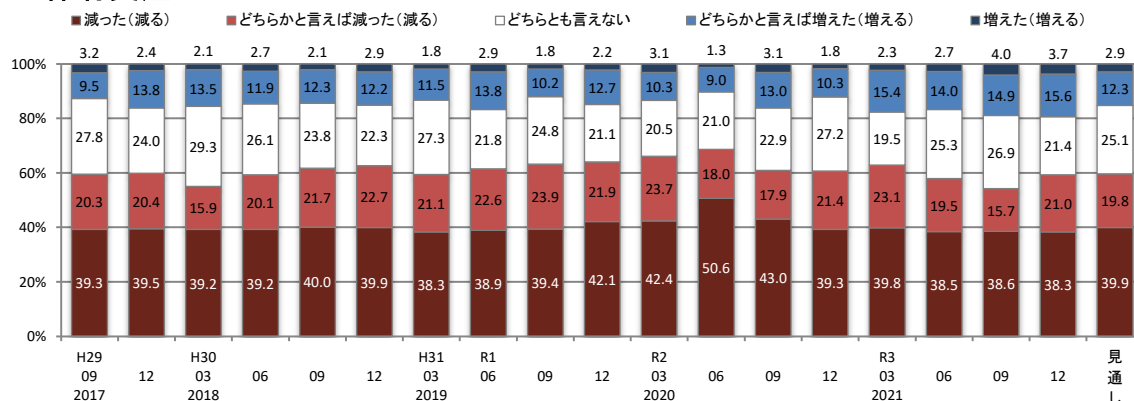
暮らし向き指数は世帯収入、保有資産、お金の使い方、暮らしのゆとりの4項目の合計からなり、値は 100 ～▲100 の範囲をとります。指数がプラスであれば暮らし向きは高揚していると判断します。一方、指数がマイナスであれば低迷していると判断します。

(2) 暮らし向き判断の推移

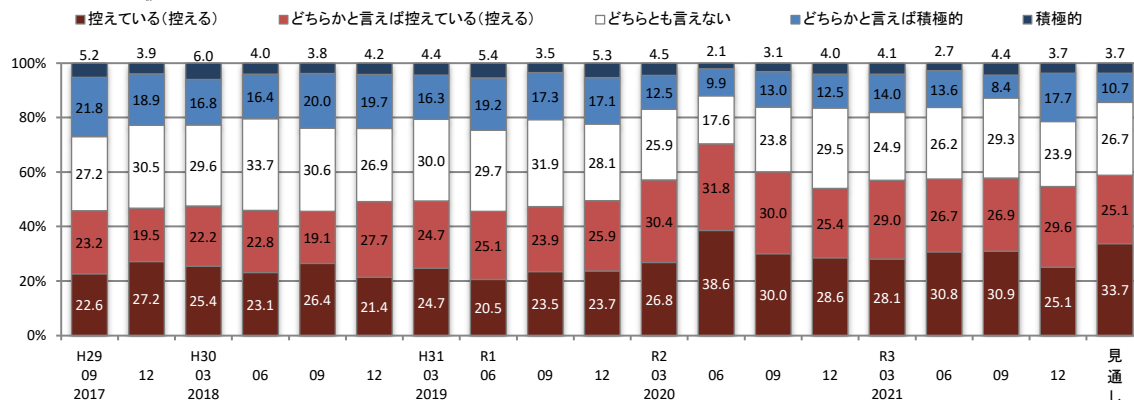
① 世帯（勤労）収入



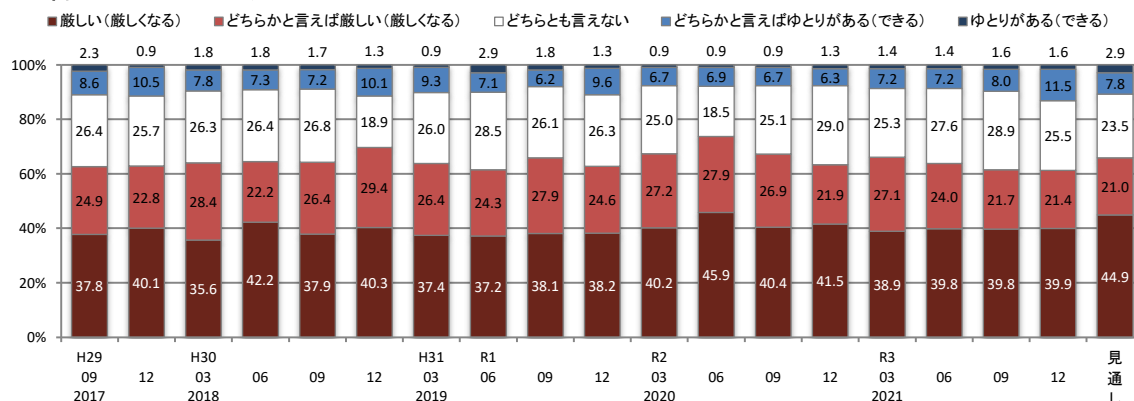
② 保有資産



③ お金の使い方



④ 暮らしのゆとり



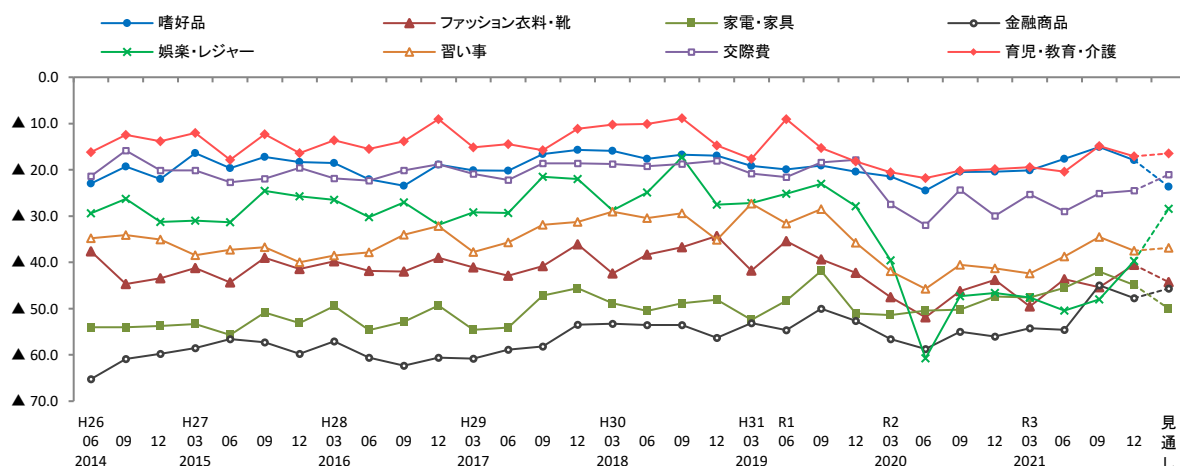
III. 支出意向

1. 支出意向DIの推移

支出意向DIの平均値は▲33.7（前期比±0.0ポイント）と横這いとなった。支出意向DIを構成する8つの項目でみると、「ファッション・衣料品」「娯楽・レジャー」「交際費」が改善となった一方、その他の5項目はいずれも悪化となった。

なお、今後の見通しについては▲33.3（今回調査比 0.4ポイント上昇）と小幅ながら改善が見込まれている。8つの項目でみると、「嗜好品」「ファッション・衣料品」「家電・家具」では悪化が見込まれる一方、その他の5項目ではいずれも改善の見通しとなっており、中でも「娯楽・レジャー」では▲28.4（同 11.3ポイント上昇）と大幅な改善が見込まれている。

図表5 支出意向DIの推移



調査時期		支出意向DI								
		平均値	嗜好品	ファッション・衣料品	家電・家具	金融商品	娯楽・レジャー	習い事	交際費	育児・教育・介護
2年 3年	12月	▲ 38.2	▲ 20.4	▲ 43.8	▲ 47.4	▲ 56.1	▲ 46.7	▲ 41.3	▲ 30.0	▲ 19.9
	3月	▲ 38.3	▲ 20.1	▲ 49.6	▲ 47.6	▲ 54.3	▲ 47.6	▲ 42.4	▲ 25.3	▲ 19.5
	6月	▲ 37.5	▲ 17.6	▲ 43.7	▲ 45.5	▲ 54.6	▲ 50.4	▲ 38.7	▲ 29.0	▲ 20.4
	9月	▲ 33.7	▲ 15.1	▲ 45.4	▲ 42.0	▲ 45.0	▲ 48.0	▲ 34.5	▲ 25.1	▲ 14.9
3年	12月	▲ 33.7	▲ 17.9	▲ 40.5	▲ 44.9	▲ 47.7	▲ 39.7	▲ 37.4	▲ 24.5	▲ 17.1
	(前期比)	(0.0)	(▲ 2.8)	(4.8)	(▲ 2.9)	(▲ 2.8)	(8.3)	(▲ 2.9)	(0.6)	(▲ 2.2)
	(前年同期比)	(4.5)	(2.4)	(3.2)	(2.5)	(8.3)	(6.9)	(3.9)	(5.5)	(2.8)
4年	見通し	▲ 33.3	▲ 23.7	▲ 44.2	▲ 50.0	▲ 45.7	▲ 28.4	▲ 36.8	▲ 21.0	▲ 16.5
	(今回調査比)	(0.4)	(▲ 5.8)	(▲ 3.7)	(▲ 5.1)	(2.1)	(11.3)	(0.6)	(3.5)	(0.6)

【DI値の見方】

各項目とも、現状判断についてそれぞれDI値を算出する。DI値とは、Diffusion Index（ディフュージョン・インデックス）の略で、算出方法は次の通り。

例) 嗜好品DI値

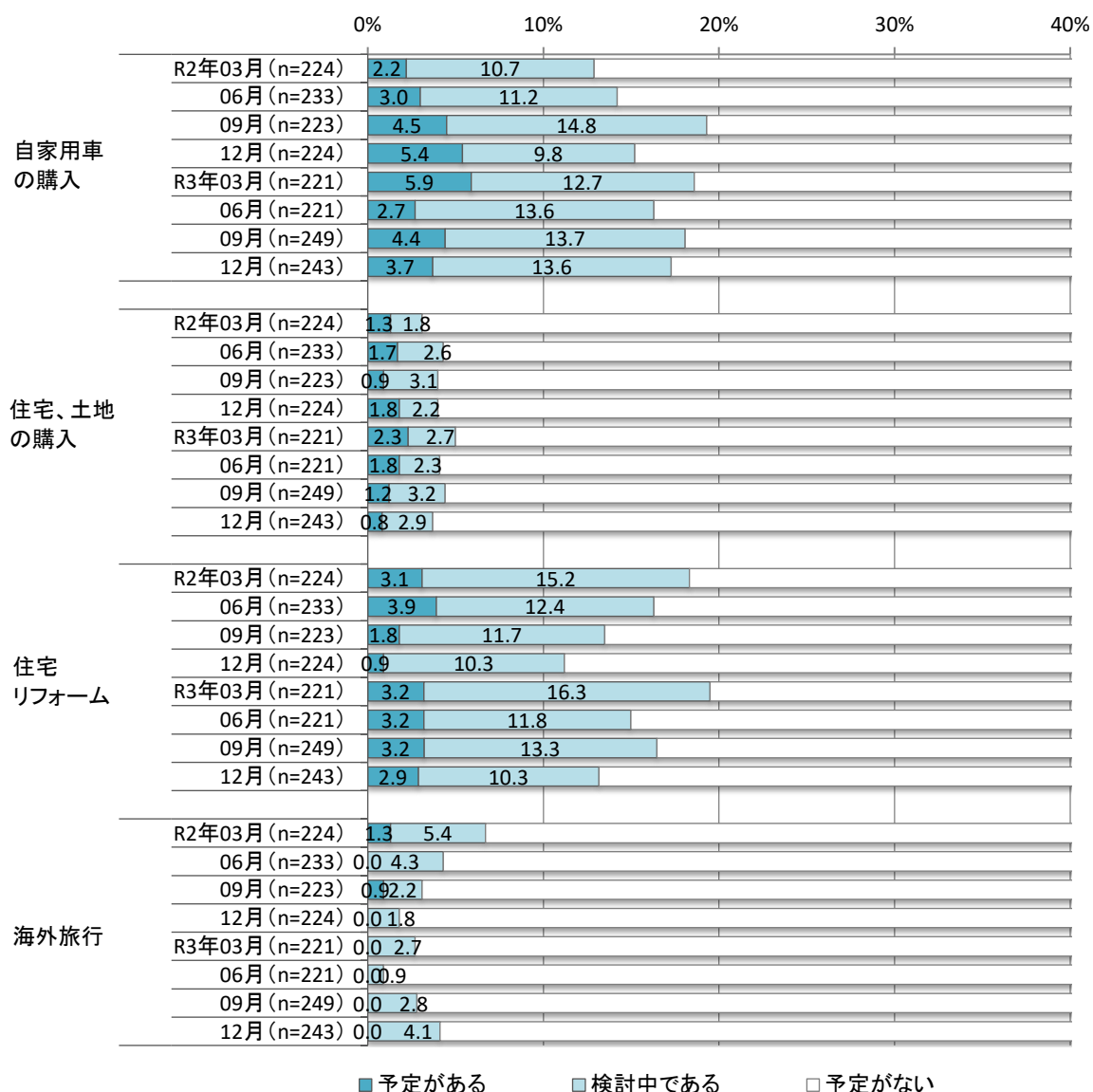
＝（「1. 意欲的である」と回答した世帯の割合×1.0＋「2. どちらかと言えば意欲的である」と回答した世帯の割合×0.5）－（「3. どちらかと言えば控えている」と回答した世帯の割合×0.5＋「4. 控えている」と回答した世帯の割合×1.0）

2. 支出意向（大きな買い物）の推移

大きな買い物の支出意向をみると、「予定がある」と回答した世帯の割合は、「自家用車の購入」では 3.7%（前期比 0.7 ポイント低下）、「住宅、土地の購入」では 0.8%（同 0.4 ポイント低下）、「住宅リフォーム」では 2.9%（同 0.3 ポイント低下）と 3 項目で低下となり、「海外旅行」（0.0%）は引き続き皆無となった。

大きな買い物（支出）に前向きな世帯（「予定がある」に「検討中である」を合わせた世帯）の割合では、「海外旅行」が上昇となった一方、その他の 3 項目ではいずれも低下となった。

図表 6 支出意向（大きな買い物）の推移

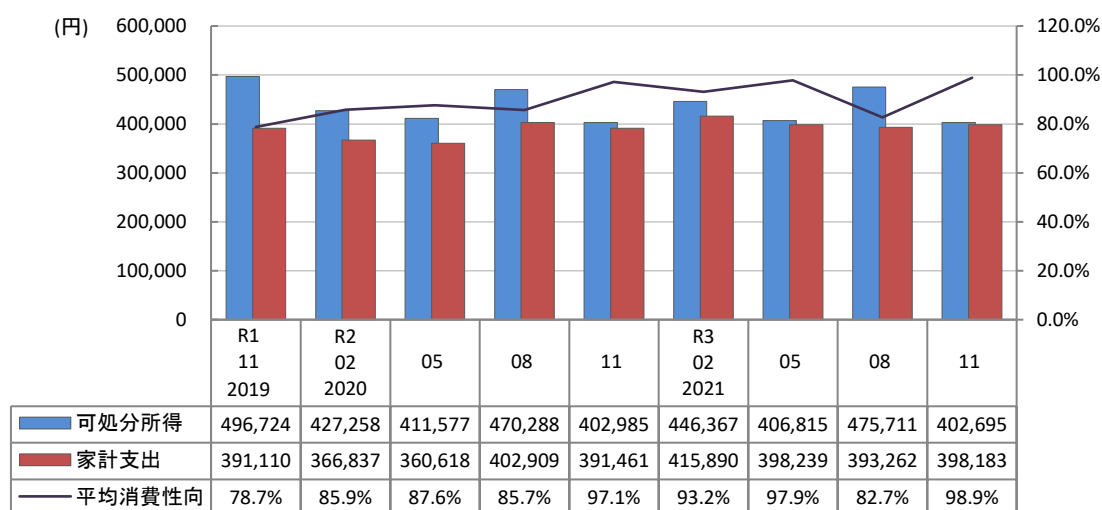


IV. 家計簿調査

図表 7 令和 3 (2021) 年 11 月の家計簿 (241 世帯)

調 査 年 月		R2年 11月	R3年 8月	R3年 11月	(単位:円)	
調 査 項 目					前期比	前年同期比
給 与	世帯主の定例給与《支給額》	354,887	332,863	330,096	▲ 2,767	▲ 24,791
	世帯主の臨時給与《支給額》	13,181	56,025	15,986	▲ 40,039	2,805
	A.世帯主の給与《支給額》	368,068	388,888	346,082	▲ 42,806	▲ 21,986
	世帯員の定例給与《支給額》	105,934	110,497	113,423	2,926	7,489
	世帯員の臨時給与《支給額》	1,050	14,169	5,112	▲ 9,057	4,062
	B.世帯員の給与《支給額》	106,984	124,666	118,535	▲ 6,131	11,551
世帯収入合計《支給額》(A+B)		475,052	513,554	464,617	▲ 48,937	▲ 10,435
収 入 (手 取 り 額)	世帯主の定例給与《手取り額》	253,617	254,002	253,046	▲ 956	▲ 571
	世帯主の臨時給与《手取り額》	10,067	44,172	13,545	▲ 30,627	3,478
	C. 世帯主の勤労収入合計《手取り額》	263,684	298,174	266,591	▲ 31,583	2,907
	世帯員の定例給与《手取り額》	87,782	90,894	92,178	1,284	4,396
	世帯員の臨時給与《手取り額》	928	11,793	4,199	▲ 7,594	3,271
	D. 世帯員の勤労収入合計《手取り額》	88,710	102,687	96,377	▲ 6,310	7,667
	世帯勤労収入合計《手取り額》(C+D)	352,394	400,861	362,968	▲ 37,893	10,574
	1. 公的年金給付(老齢、障害、遺族年金)	13,134	40,156	10,077	▲ 30,079	▲ 3,057
	2. 保険給付金(医療、介護、失業保険)	890	1,004	1,892	888	1,002
	3. 各種手当(児童手当、障害者手当など)	4,558	4,279	2,495	▲ 1,784	▲ 2,063
	4. 利息、株式配当、投信分配金	1,156	1,533	2,582	1,049	1,426
	5. 事業収入(個人事業、農林水産業など)	3,831	2,635	102	▲ 2,533	▲ 3,729
	6. 不動産収入(駐車場、アパート家賃など)	2,679	4,839	4,407	▲ 432	1,728
	7. 有価証券売却・解約金(株、投資信託など)	7,960	967	3,669	2,702	▲ 4,291
	8. 不動産売却(土地、住宅、マンションなど)	9	0	0	0	▲ 9
	9. 中古品売却(リサイクルショップなど)	349	346	895	549	546
	10. 保険満期返戻金	1,948	756	50	▲ 706	▲ 1,898
	11. 保険一時金(生命保険、損害保険など)	528	110	62	▲ 48	▲ 466
	12. 相続、贈与、退職金	0	7,851	0	▲ 7,851	0
	13. 祝金、謝礼金、香典など	447	1,542	1,371	▲ 171	924
	14. 身内からの仕送り	1,451	2,048	2,560	512	1,109
	15. 借入れ(カードローン、キャッシング)	2,518	2,346	4,503	2,157	1,985
	16. その他	9,133	4,438	5,062	624	▲ 4,071
	E. その他収入(控除後)	50,591	74,850	39,727	▲ 35,123	▲ 10,864
	I. 収入計(C+D+E)	402,985	475,711	402,695	▲ 73,016	▲ 290
支 出	1. 食費(飲食会費は含まない)	58,620	60,658	58,051	▲ 2,607	▲ 569
	2. 住居費(家賃、駐車場、修繕)	16,046	14,039	20,258	6,219	4,212
	3. 水道・光熱費(電気、ガス、上下水道、灯油など)	27,562	25,085	28,920	3,835	1,358
	4. 生活用品(生活雑貨、家事消耗品など)	11,881	12,034	10,860	▲ 1,174	▲ 1,021
	5. 被服・装飾費(衣服、アクセサリ等)	11,131	9,524	10,543	1,019	▲ 588
	6. 医療・介護・理美容(通院、医薬品など)	15,297	12,808	12,746	▲ 62	▲ 2,551
	7. 交通費1(バス、鉄道、飛行機、高速道路料金など)	2,144	2,793	3,174	381	1,030
	8. 交通費2(ガソリン代)	14,486	16,971	17,288	317	2,802
	9. 自動車関連費用(車検、メンテナンス、タイヤなど)	28,501	12,368	24,313	11,945	▲ 4,188
	10. 通信費(電話、新聞、受信料、プロバイダー料金など)	21,997	22,271	21,086	▲ 1,185	▲ 911
	11. 教育費(授業料、教材費、学習塾、部活費用など)	11,438	12,067	10,965	▲ 1,102	▲ 473
	12. 育児費(子ども用品、保育園、幼稚園など)	2,311	2,252	2,688	436	377
	13. 交際費(飲食会費、贈答品、冠婚葬祭費など)	14,732	14,080	15,390	1,310	658
	14. 娯楽、趣味(旅行、レジャー、映画鑑賞など)	7,449	7,904	9,290	1,386	1,841
	15. 習い事(英会話、料理教室、スポーツクラブなど)	2,140	2,360	2,583	223	443
	16. 高額商品(パソコン、家電、家具、インテリアなど)	18,245	10,837	24,194	13,357	5,949
	17. 金融商品1(株、国債、外貨、金など)	4,614	4,742	6,104	1,362	1,490
	18. 金融商品2(投資信託、変額・定額年金保険)	7,212	13,867	7,850	▲ 6,017	638
	19. 借入返済1(住宅ローン)	26,419	32,869	30,308	▲ 2,561	3,889
	20. 借入返済2(自動車、学資、カードローン)	10,013	12,113	9,417	▲ 2,696	▲ 596
	21. 税金、各種保険料支払い(給与天引き以外)	37,317	37,368	33,672	▲ 3,696	▲ 3,645
	22. 身内への仕送り(学生など)	9,203	15,040	8,699	▲ 6,341	▲ 504
	23. 小遣い、その他	32,703	39,212	29,784	▲ 9,428	▲ 2,919
II. 支出計		391,461	393,262	398,183	4,921	6,722
平均消費性向(支出計÷収入計×100)		97.1%	82.7%	98.9%	16.2%	1.8%
平均貯蓄性向(1－平均消費性向)		2.9%	17.3%	1.1%	▲ 16.2%	▲ 1.8%

図表 8 家計の収支と平均消費性向の推移



家計簿調査によれば、収入面では可処分所得（収入の手取り額）が 403 千円となり、前年同期とほぼ同額となった。勤労収入では、「世帯主の勤労収入合計（手取り額）」が前年同期比で 3 千円増加、「世帯員の勤労収入合計（手取り額）」が 8 千円増加とともに増加し、これを合わせた「世帯勤労収入合計（手取り額）」は 11 千円の増加の 363 千円となった。「その他収入（控除後）」は 40 千円で 11 千円の減少となり、前年同期と比べて増減額の大きな項目はなかった。

支出面では支出合計が 398 千円となり、前年同期比で 7 千円の増額となった。前年同期と比べて増減額の大きな項目はなかった。

この結果、平均消費性向（家計支出/可処分所得）は 98.9%（前年同期比 1.8 ポイント上昇）となった。

V. 特別調査

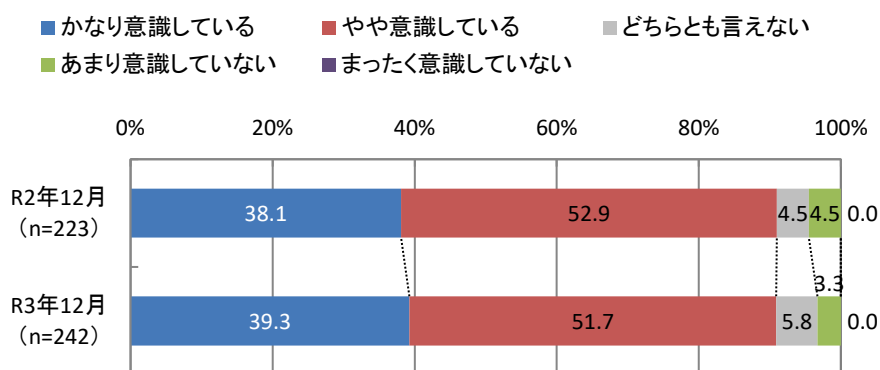
1. 節約の意識について

(1) 節約の意識について

日々の生活でどの程度節約を意識しているか尋ねたところ、「かなり意識している」が 39.3%、「やや意識している」が 51.7%となり、これを合計した「(節約を) 意識している」と回答した世帯は 91.0%と、昨年(令和 2 年 12 月) 調査と同率で、引き続き 9 割以上と高い割合となった。

一方、「まったく意識していない」との回答は昨年と同様に皆無となり、「あまり意識していない」と回答した世帯は 3.3%と、昨年調査(4.5%) に比べて 1.2 ポイント割合が低下した。

図表 9 節約の意識について



(2) 節約を意識している理由

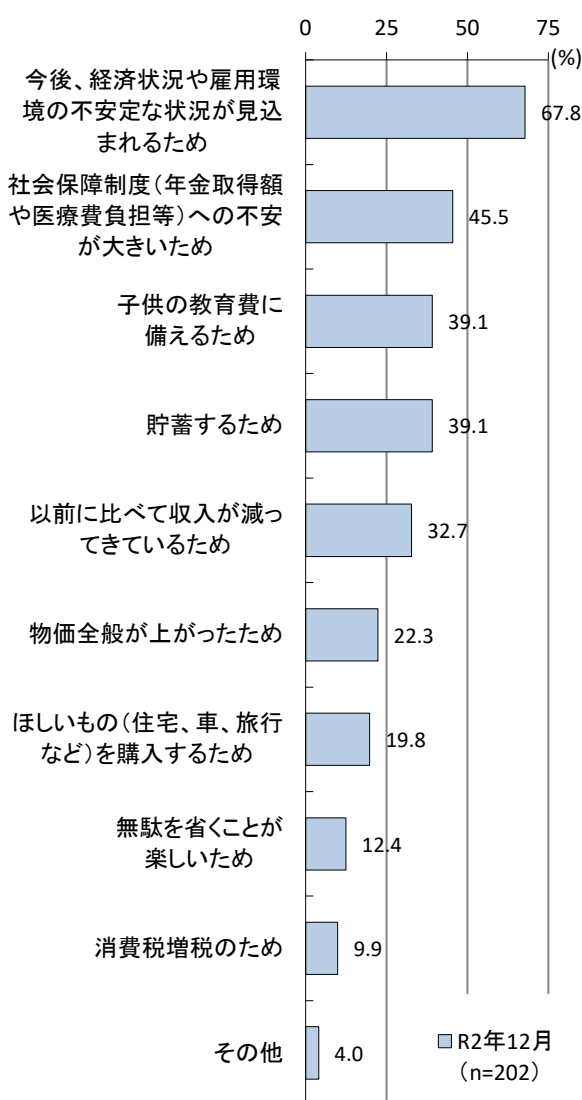
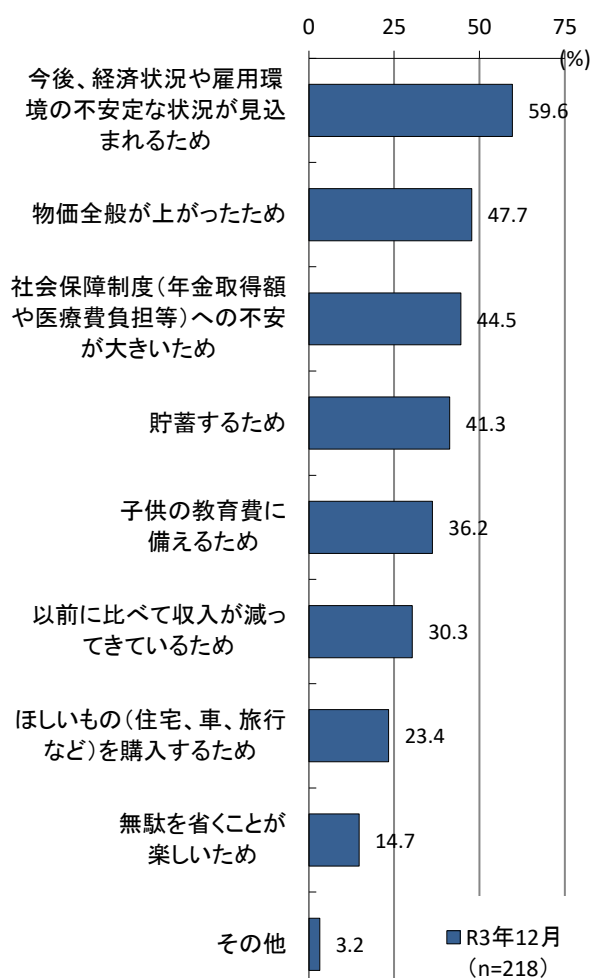
(1) で節約を意識していると回答した世帯に対して、その理由（複数回答）を尋ねたところ、「今後、経済状況や雇用環境の不安定な状況が見込まれるため」が 59.6%でもっとも高い割合となり、これに「物価全般が上がったため」が 47.7%で続き、以下は「社会保障制度（年金取得額や医療費負担等）への不安が大きい」（44.5%）、「貯蓄するため」（41.3%）、「子供の教育費に備えるため」（36.2%）などの順となった。

昨年の調査結果に比べて、「今後、経済状況や雇用環境の不安定な状況が見込まれるため」の割合が 8.2 ポイント低下した一方、「物価全般が上がったため」の割合は 24.5 ポイントと大きく上昇し、2 位にランクアップしている。

図表 10 節約を意識している理由（複数回答）

（参考）節約を意識している理由（複数回答）

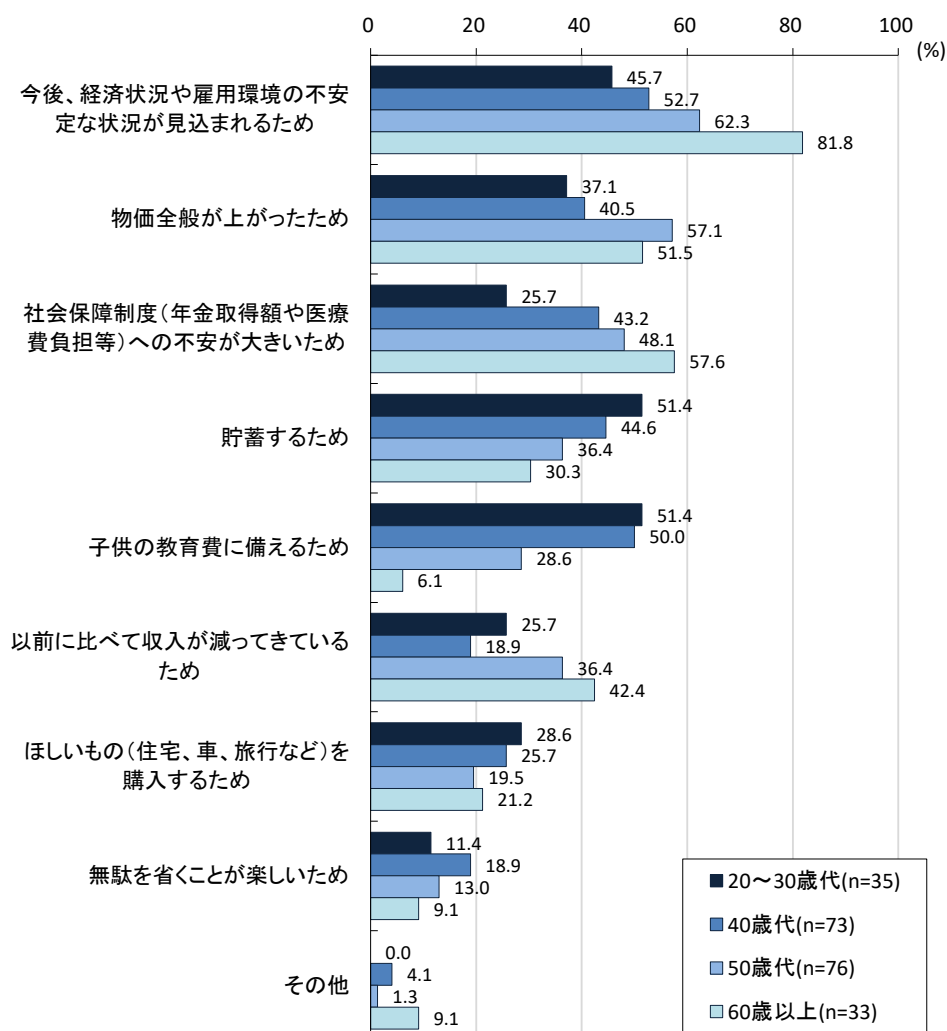
昨年調査結果



次に節約を意識している理由を世帯主の年齢別にみると、全体で 1 位の「今後、経済状況や雇用環境の不安定な状況が見込まれるため」では、60 歳以上で 8 割台、50 歳代で 6 割台、40 歳代で 5 割台と、これらの年代ではもっとも高い割合となったほか、20～30 歳代でも 4 割台と高めの割合を示した。第 2 位の「物価全般が上がったため」では、50 歳代と 60 歳以上で 5 割台と高い割合となった一方、40 歳代では 4 割台となり、20～30 歳代では 3 割台にとどまっている。

全体の上位 3 項目では、年代が上がるにつれて割合が高くなる傾向が見られる一方、全体 4 位の「貯蓄するため」と同 5 位の「子供の教育費に備えるため」では、年代が若いほど割合が高い傾向がうかがえるなど、年代による意識の違いが見られた。

図表 11 節約を意識している理由〔世帯主の年齢別〕（複数回答）

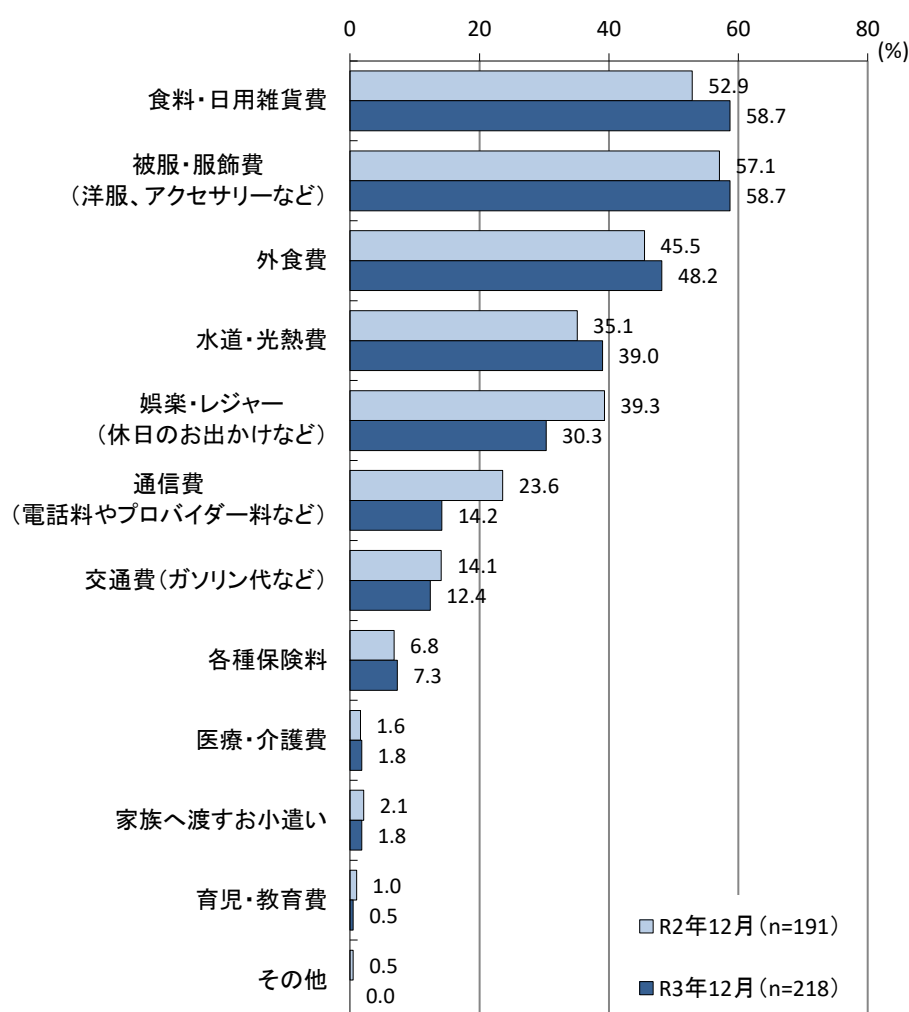


(3) 節約を特に意識する出費

(1) で節約を意識していると回答した世帯に対して、特に節約を意識している出費について尋ねた（回答は3つまで）ところ、昨年調査で1位の「被服・服飾費（洋服、アクセサリなど）」と、同2位の「食料・日用雑貨費」がともに58.7%となり、同率でトップとなった。以下は、「外食費」（48.2%）、「水道・光熱費」（39.0%）、「娯楽・レジャー（休日のお出かけなど）」（30.3%）などの順となった。総じてみれば、出費の頻度の高い「食料・日用雑貨費」のほか、「被服・服飾費（洋服、アクセサリなど）」や「外食費」といった不要不急の支出を抑えたいという意向が引き続きうかがえた。

また、昨年調査と比較すると、上位4項目のほか、「各種保険料」と「医療・介護費」では割合が上昇した一方、第5位の「娯楽・レジャー（休日のお出かけなど）」では9.0ポイント低下、第6位の「通信費（電話料やプロバイダー料など）」では9.4ポイント低下となるなど、6項目で割合が低下した。

図表 12 節約を特に意識している出費（回答3つまで）



VI. 調査の概要

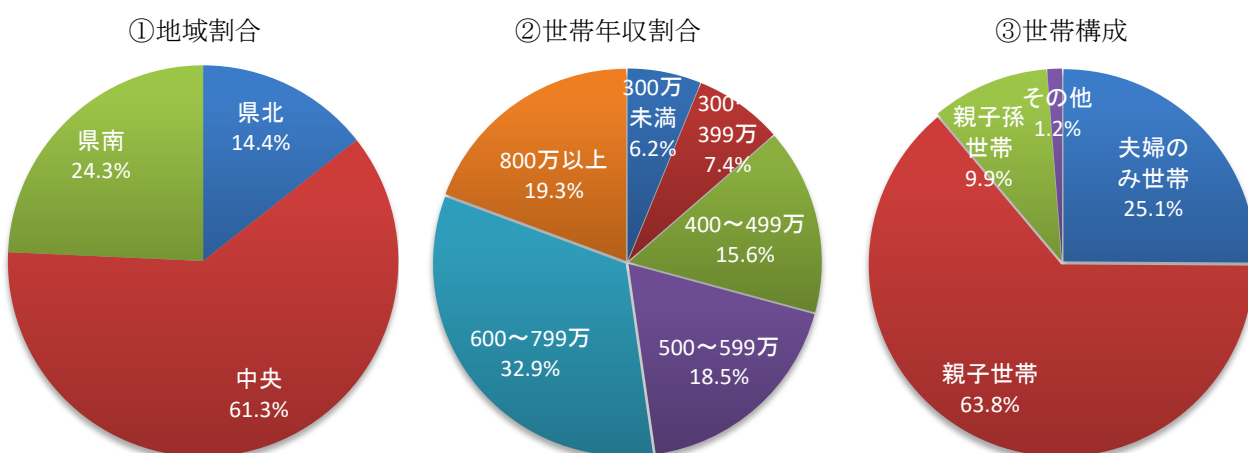
1. 調査の目的

秋田県民の暮らし向きや今後の見通しについて時系列的に捉えるとともに、具体的な商品やサービスに対する支出動向を把握することにより、景気判断等の基礎資料を得ることを目的とする。

2. 調査の内容

- ◆ 専属モニターを利用したアンケート調査
- ◆ モニター世帯数：258 世帯 有効回答数：243 世帯 回答率：94.2%

3. 回答モニター属性



4. 調査の対象者

秋田県内に在住する勤労者（サラリーマン）世帯（世帯人数 2 人以上の世帯）

5. 調査期間

令和 3（2021）年 12 月 1 日（水）～15 日（水）

6. 地域区分

地域名	対象となる市町村名
県 北	大館市、能代市、北秋田市、鹿角市、三種町、八峰町、小坂町、藤里町、上小阿仁村
中 央	秋田市、由利本荘市、潟上市、男鹿市、にかほ市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村
県 南	横手市、大仙市、湯沢市、仙北市、美郷町、羽後町、東成瀬村

<お問い合わせ先>

株式会社 フィデア情報総研 地域政策コンサルティング部（秋田事業所） 後藤／佐藤

秋田事業所

〒010-0001 秋田県秋田市中通 3-1-41 北都銀行本店 3F
Tel：018-837-1727 Fax：018-834-5508

山形支社

〒990-0043 山形県山形市本町 1-4-21 荘銀山形ビル 8F
Tel：023-626-9017 Fax：023-626-9038 E-mail：kenkyuu@fir.co.jp
URL：https://www.fir.co.jp/